

ともに守る日本庭園 吉川元偉

2023/5/12 2:00 | 日本経済新聞 電子版

米ニューヨークで国連日本代表部の公使をしていた1997年、国連から日本が寄贈した「平和の鐘」の周りを日本庭園にしないかと打診があった。毎年秋に国連事務総長らが平和を祈念して鐘をつく大事な場所だ。広報のいい機会だと飛びつき、計画作りと資金集めに関わった。

そこで出会ったのがボストン在住の造園家の阿部紳一郎、通称シンさんだ。初対面から意気投合。あまり資金をかけられないと打ち明けると、庭園の設計費は「手弁当でいいです」という。

シンさんは「平和の鐘」を北極に、巨石を五大陸にみたてて庭園を設計した。重い石を置くために地盤を強化するなど苦労も多かった。2000年に完成後も庭を自分の子どものように心配して、手入れを続けてくれている。

15年には当時皇太子だった天皇陛下が来園され、国連大使だった私が鐘の由来を、シンさんが庭の説明をした。シンさんはその後、北米の優れた日本庭園設計者5人のうちの1人に選ばれた。

私の退官後も彼が来日する度に旧交を温めている。シンさんはこのほど、日本庭園の普及に努めた功績が認められ、叙勲名簿に名を連ねた。自分のことのようにうれしい。ともに祝杯を挙げる日が待ち遠しい。（よしかわ・もとひで=元国連大使）

 [「日経文化」のTwitterアカウントをチェック](#)

このページを閉じる

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。